

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 24

土器川の自然再生をめざして

香川県 丸亀市長

あら い てっ じ
新井 哲二



土器川は、香川と徳島との県境にある讃岐山脈の山中(真鈴峠・標高734メートル)に源を発し、讃岐平野を経て瀬戸内海に注ぐ香川県唯一の一級河川です。全国でも有数の急流河川であり、大雨が降ると雨水は一気に海まで流れ、時には下流地域に洪水被害をもたらすなど暴れ川として名をはせています。

さて、ご承知の方もいらっしゃると思いますが、JR丸亀駅の駅前には、猪熊弦一郎現代美術館があり、多くの方々が訪れています。その猪熊画伯が幼少のころ(明治42年)に起こったといわれる、土器川にまつわる話があります。当時、小学校1年生だった画伯は、友だちと土器川へホタル狩りに出かけたのですが、そのとき下駄が脱げ、流され、それを追いかけるうち、ナゲにはまり死にかけたというのです。そのとき、アメ湯売りのおじさんに助けられ、九死に一生を得、それから、丸亀に対する思い入れが強くなったといわれています。

ナゲとは、堰の下流の深みのことで、当時猪熊

画伯はお母さんから「土器川に行ってもナゲの近くには絶対近づいてはいけない。ナゲには、ガータロ(河童)が住んでおり、落ちたら最後、ガータロに食べられ、次の日には骨だけになって浮かんでくるのだから」と言い聞かされていたということです。

本当に遠い昔の話で、画伯にはお気の毒な出来事ではありましたが、当時は土器川の河口近くでもホタルが飛んでいたのだなあとと思うと心がなごみます。

現在では、河口より9キロメートルほど上流のところに、自然生態を生かした土器川生物公園があります。この公園は、「四国のみずべ八十八ヶ所」、「のこしたい水環境香川の50選」に選定され、年間を通して多くの市民が訪れています。5月には、ホタル祭りが開催され、子どもたちが水遊びなどで自然にふれ親しんだりする絶好の機会となっています。丸亀を代表する貴重な自然資源である土器川、将来にわたって守り続けたいと思います。



土器川河口近くで行われる田潮八幡神社の伝統行事「水浴び御輿」。川の中での暴れ方が激しいほど豊作になるという。猪熊画伯が落ち込んだのもこの土器川河口付近だったそうだ。